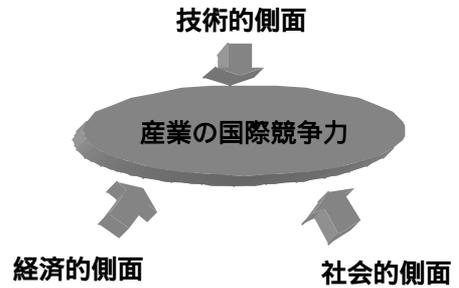


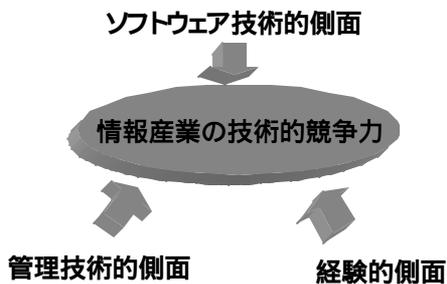
我が国情報産業 の 国際競争力

広島市立大学
情報科学部
大場 充

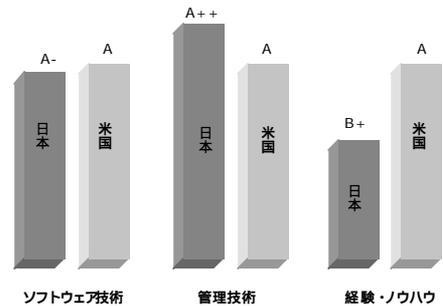
産業の国際競争力



情報産業の技術的競争力



日米情報産業の技術的競争力比較



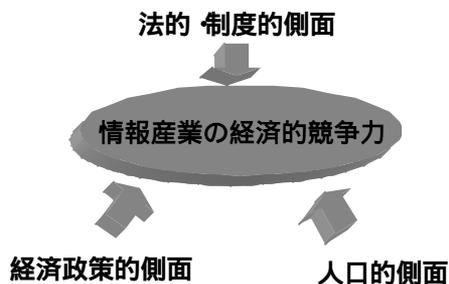
日米情報産業の技術力比較

- ソフトウェア技術的側面
 - ? 新技術の導入において米国が日本に勝る。
 - ? 米国における雇用の流動性が技術への依存度を高めている。
- 管理技術的側面
 - ? 特に組織的・トップダウン的な品質管理の実践において日本が米国に勝る。
- 経験的側面
 - ? 一般的には、米国における雇用の流動性が技術者・管理者の経験の蓄積を容易にしている。

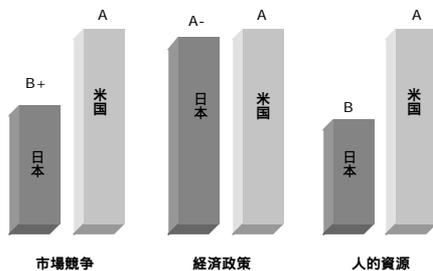
技術力比較の分析とまとめ

- 雇用の流動性と技術力
 - ? 米国においては、雇用の流動性が専門職業人としてのソフトウェア技術者やソフトウェア管理者の育成や経験の蓄積を促進している。
 - ? 個々の企業においても、雇用がより流動的なため、個人よりも技術に依存する傾向がある。
- 雇用の流動性と管理技術
 - ? 雇用の流動性に乏しい日本において、特定企業における管理技術の洗練度は高まる傾向がある。

情報産業の経済的競争力



日米情報産業の経済的競争力比較



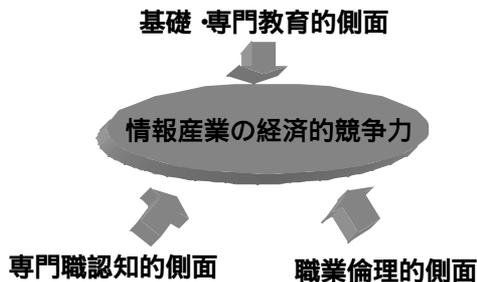
日米情報産業の経済力比較

- 法的・制度的側面
 - ? 米国における市場競争の熾烈さは、個々の企業が競争力を高めようとする環境を作っている。
- 経済政策的側面
 - ? 国内企業を保護する傾向があった日本において、競争力を高める企業努力が阻害されている。
- 人口的側面
 - ? 相対的に人口の少ない日本において、労働コストが高く、産業のコス競争力を弱めている。

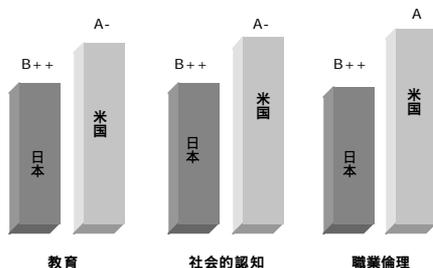
経済力比較の分析とまとめ

- 市場原理と経済競争力
 - ? 米国においては従来から、経営においてソフトウェア開発組織をプロフィット・センターと位置づけており、社外との競争にさらされている。
 - ? 相対的に新規参入障壁が低い米国市場で、コスト競争に耐えられる組織作りが進んでいる。
- 労働コストと経済競争力
 - ? 労働市場が限定的な日本において、労働コストが高騰し、産業の国際競争力を弱めている。

情報産業の社会的競争力



日米情報産業の社会的競争力比較



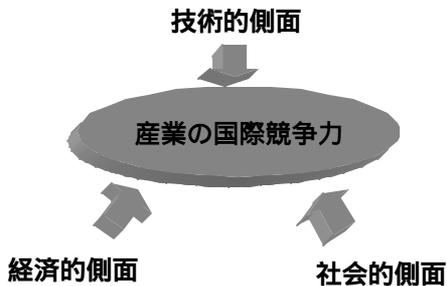
日米情報産業の社会力比較

- 基礎・専門教育的側面
 - ? 米国の初等・中等・高等教育における新しい教育方法の導入が、効果をあげつつある。
- 専門職社会認知的側面
 - ? 専門職を軽視する日本社会において、高度な専門知識をもつ人材の育成が阻害されている。
- 職業倫理的側面
 - ? 職業より企業組織を優先する日本社会において、職業倫理に対する認識が弱い。

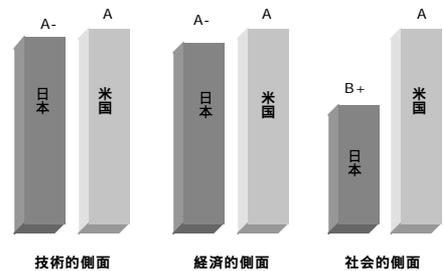
社会力比較の分析とまとめ

- 現状を優先する社会と変化に強い社会
 - ? 日本においては従来から、現状を変えないことを優先し、問題を先送りすることで問題を解決する。
 - ? 社会の動的な変化を受け入れ易い米国では、組織や制度を変えることで問題を解決する。
- 教育と競争力
 - ? 「次世代の人材」を育成するための制度としての教育が、日本では機能していない。質のよい知識を注入するが、問題解決を教えていない。

産業の国際競争力



日米情報産業の競争力比較



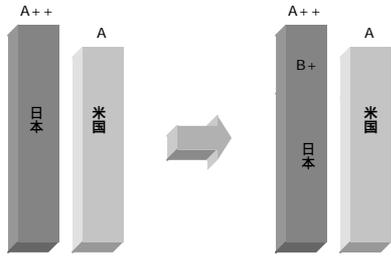
日米情報産業の競争力比較

- 技術的側面
 - ? 管理技術的側面において日本が米国に勝る。
 - ? 米国における雇用の流動性が技術への依存度を高めている。
- 経済的側面
 - ? 市場での自由競争の激しさが、米国情報産業を活性化している。
- 社会的側面
 - ? 変化に弱い日本社会の問題が表面化している。
 - ? 日本の20世紀的教育制度が破綻しつつある。

競争力比較の分析とまとめ

- 米国情報産業の変化への対応
 - ? 20世紀型システムから21世紀型システムへの変化に対する対応が、米国情報産業においてより円滑に進んでいる。
 - ? 技術面よりも、経済面、社会面の対応の早さが、産業における変化の対応の速さを支えている。
- 我が国情報産業の変化への対応
 - ? 国内の経済システムや社会システムが、世界規模での変化に追従できず、その影響で個別の産業における対応が遅れている。

10年前の日米情報産業比較から



1991年の国際競争力比較

2004年の国際競争力圧縮

若い皆さんに期待します。

我が国情報産業の再構築